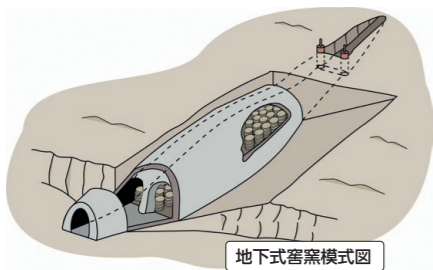


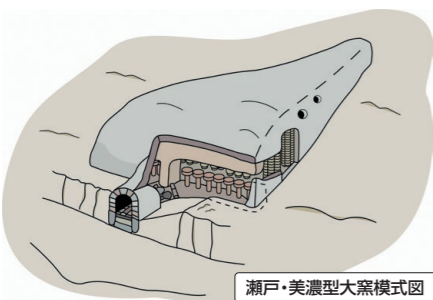
かま
窯とは

す え き か い ゆ う
須恵器や灰釉陶器などの焼き物を焼く施設のことを「窯」と呼びます。構造から窖窯、大窯、登窯などと区別されます。



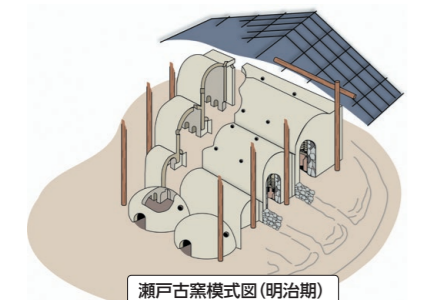
窖窯(あながま)

須恵器焼成窯として朝鮮半島から伝来した窯の一種です。地面をトンネル状に掘りぬく地下式、溝状に掘りくぼめた後に天井を作る半地下式に分けられます。温度を上げやすい反面、高温を維持するため、大量の薪が必要となります。



大窯(おおがま)

15世紀末に窖窯から発展した地上式の窯を大窯といいます。今のところ瀬戸・美濃窯で独自に開発された構造と考えられています。



連房式登窯(れんぼうしきのぼりがま)

16世紀末、豊臣秀吉の朝鮮出兵に際し、九州の大名が朝鮮半島の陶器の職人を連行して九州地方北部に導入した窯のことを連房式登窯といいます。17世紀初頭には美濃窯に導入され、やがて瀬戸窯にも取り入れられ、近世・近代の主要窯炉となりました。

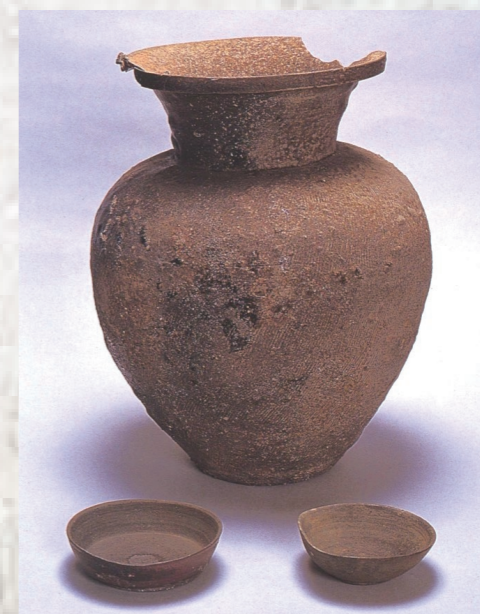
い が や こ よ う せ き ぐ ん
井ヶ谷古窯跡群
—いにしへの刈谷のものづくり—

井ヶ谷古窯跡群とは？

刈谷市の北部と豊田市の南西部には、古代から中世にかけての古窯が77基存在し、井ヶ谷古窯跡群と呼ばれています。そのうち31基が刈谷市の指定史跡となっています。井ヶ谷町の洲原池・大池・広沢池・牛池の周辺に分布し、碧海台地より古く、一段高い挙母台地に広がっています。

井ヶ谷窯の最も古い時期の窯は8世紀中頃で、市内に2基確認されています。8世紀後半から9世紀前半ごろに最盛期を迎え、9世紀後半から11世紀にかけて衰退していったとされています。

問 歴史博物館 (☎63・6100)



▲市指定有形文化財「坏とかめ」
(東境町 山の田古窯出土)

井ヶ谷古窯跡群の源流となった

日本三大古窯のひとつ 猿投窯

猿投窯は名古屋市の東部から瀬戸市北部、長久手市、日進市、東郷町、西三河西部(刈谷市、豊田市、みよし市)を含む約20km四方に広がる、古墳時代から鎌倉時代にかけて須恵器、灰釉陶器、山茶碗を焼いた窯跡の総称です。日本三大古窯の一つで、「猿投窯」「猿投山西南麓古窯跡群」と呼ばれています。数百年間操業した猿投窯は、瀬戸焼・常滑焼の源流ともなった日本屈指の大窯業地でした。



▲猿投窯の範囲